



その絵本を読みたいという気持ち

図書館でよく耳にする、ある言葉。それは、子どもが借りたいと言った本に対して「もう何回も読んだでしょ。それは小さい子向けの本だから、もういいよ」と「それは難しいよ。もう少し大きくなったら読もうか」という言葉です。借りていった本を「やっぱり読まない」と言われると悲しくなるのも分かります。でも！ それでも、それはもったいないと私は思ってしまうのです。

❖好きなんだもの

例えば、自分が好きな曲、しかもイマドキの曲ではなく少し古い曲を何度も繰り返し聴いて「やっぱり良いよね」と思っているのに、他の人から「もう何回も聴いたでしょ。それは古い曲だから、もう聴かなくていいよ」と言われたらどう思うでしょう。

私なら、好きな曲を聴けない悲しみや戸惑い、自分の好みを否定された怒りが出てくるでしょう。嬉しいと思う人はいないはず。

きっと、子どもも同じような気持ちを抱くと思うのです。大切な「好きという気持ち」を摘んでしまうのはもったいない！ たくさんある本の中から何回も読みたいと思うほど大好きな本に出会えたのですもの、気の済むまで楽しんでほしいと思います。

❖惹かれたんだもの

次に、難しい本を借りたいと子どもが言った時。正直、借りない（借りたくない）という大人の気持ちも分かります。「読む」と言って借りたのに結局読まない、「難しいよ!？」と念を押したのに途中から飽きて読むのを止めてしまう……。そんな『ヨムヨム詐欺』を考えると、念を押してしまうのも分かります。せつかく借りていったのに読まないのは残念ですし、それが何度も続くと怒りすら覚えて「読みたいって言ったじゃない！」とつい怒った口調で言うてしまうこともあります。

でも、子どもが読みたいと思ったのには「絵が好みだから」とか「タイトルが面白そうだから」とか何か読みたいポイントがあったのだと思います。絵本なのですから、画集のように絵だけ見て楽しんでもいいじゃないですか。長いお話しだったら、思い切って短くアレンジしてみてもいいじゃないですか。絵もお話しも十分に理解できた方がより面白く読めるとは思うけれども、「絵本を楽しむこと」「お話しを楽しむこと」が「読解すること」とイコールになってしまったら、それは何か堅苦しいような気がします。読解できるのはもう少し先でも、「今」読みたいと

思ったのですもの。「今」も楽しみましょうよ。

さて、我が子もそろそろイヤイヤ期。「読む」のも「読まない」のもイヤ！あれもこれもイヤ！などと言われると、本当に困ってしまってイライラするのが目に見えています。それでも「今、この瞬間」の気持ちを「そうなんだ～」と受け止め、気持ちが変わったら「変わったんだ～」と思えるような、そういう子育てができればいいなと思っています。（虻川郁子）

❁いかがですか？

今回から館長だけではなく、図書館職員もコラムを担当することになりました。皆さんといつも顔を合わせている図書館職員の発信をお楽しみいただけたらと思います。

さて、5月の「生涯学習発表月間 in 松下村塾」で来てくれたキッチンカーが6月も来てくれます。6月は、9日、13日、21日、25日と不定期ではありますが、様子をみながら定期的に来てもらえるようにしていきたいと思っています。キッチンカーが止まる場所はラウンジから見えるところです。図書館でお茶することも一つの楽しみに入れていただけたら……（保）